

私もがん患者の仲間入りをしました。アルバイト先の病院に超音波検査装置があり、自分自身でぼつこつのエコー検査をして腫瘍を発見したのです。青天のへきれきでした。

東京大学医学部の先輩の病院で、若い頃から毎月、当直の仕事をしてきました。2年ほど前に肝臓に脂肪がたまる脂肪肝を自分で見つけて以降、毎月エコー検査を自分でしてきました。

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

自己検査で罹患が発覚

こは吸いませんし、運動は毎日していて、体重も若い頃のままです。正直、まさか自分が罹患(りかん)するとは思っていませんでした。

ぼつこつがんは人口10万人あたり10人程度の発生率です。男女比は3対1で男性に多く、60歳以上の高齢層に多くみられます。危険因子としてははっきりしているのは、特

大きな影響はないと考えてよいと思います。

非喫煙者の私がぼつこつがんにかかる明確な理由などありません。運が悪かったのでしょうか言えないと思います。ぼつこつがんでは肉眼や顕微鏡で確認できる血尿が8割の患者でみられ、早期発見のカギになります。私の場合は陰性でした。

検査結果の写真を撮って後輩の泌尿器科医にメールで送信すると、「ぼつこつがんの可能性が大きい」と返事が来ました。翌日、同じ医師に内

うがんがほぼ確定しました。日本人男性の3人に2人ががんになる時代ですから、「がんになることを前提にした人生設計が必要」などと発言してきました。しかし私はたば

定の化学物質を除けば喫煙だけです。男性のぼつこつがんの50%以上、女性でも30%程度は喫煙が原因で発生するといわれます。コーヒーについては結論が出ていませんが、

自分自身で行った検査が早期発見につながりましたが、一般の方にはもちろん不可能です。しかし自分の体を守るため、できることはなるべく行う方がよいという教訓にしたいと思います。

次回はがん専門医の私が受けたがん治療を解説します。

(東京大学病院准教授)